

市民フォト

鹿児島

No.3

●昭和55年12月1日発行

日だまりに広げられたござの上。新年の門口に、^{まがみ}禍神が内に入らぬようにと張るしめなわ、を作る。代々に伝えられる習わしを今年の子供たちが教わる。

(人物は、ミス鹿児島・井手朋子さんと山田町の上川ムラさんご一家)





もくじ

私の作品.....	2
特集・おはら祭	
踊って踊って.....	3 ~ 5
おはら祭いま昔.....	6 ~ 7
人物登場(有馬万里代さん).....	8 ~ 9
ぼくらの施設めぐり(魚類市場).....	10 ~ 13
市民のひろば.....	14 ~ 16
奥様こんにちは(大野照子さん).....	17
あなたのフォトサロン	
天文館.....	18 ~ 19
緑を求める人々.....	20 ~ 21
わたしの散歩道(平之町界わい).....	22 ~ 23
カメラトピックス.....	24 ~ 25
あの店この店(重吉そば).....	26
市立美術館(アトリエ).....	27

私のすきな家

明和小学校六年 上原悦子

校内スケッチ大会のときに、学校の近くにある建物の中で、私が、将来、いちばん住んでみたい家をかきました。

どつしりと、おちついた調和のとれた構図にしようと思いました。

色は、全体のまとまりを考えて、ていねいにぬりました。
かきおわってみると、絵の中に、もう少し明るさが、ほしかったなと思います。



踊って踊って



花は霧島 煙草は国分…ヨイヨイ、ヨイヤサ! ●特集／おはら祭



晴れやかにビルの谷間にこだまする三味・太鼓の音にのって、一八九連、一万五千人が踊りまくる。装いさまざま、色とりどりに工夫をこらして、けんを競う踊り手に

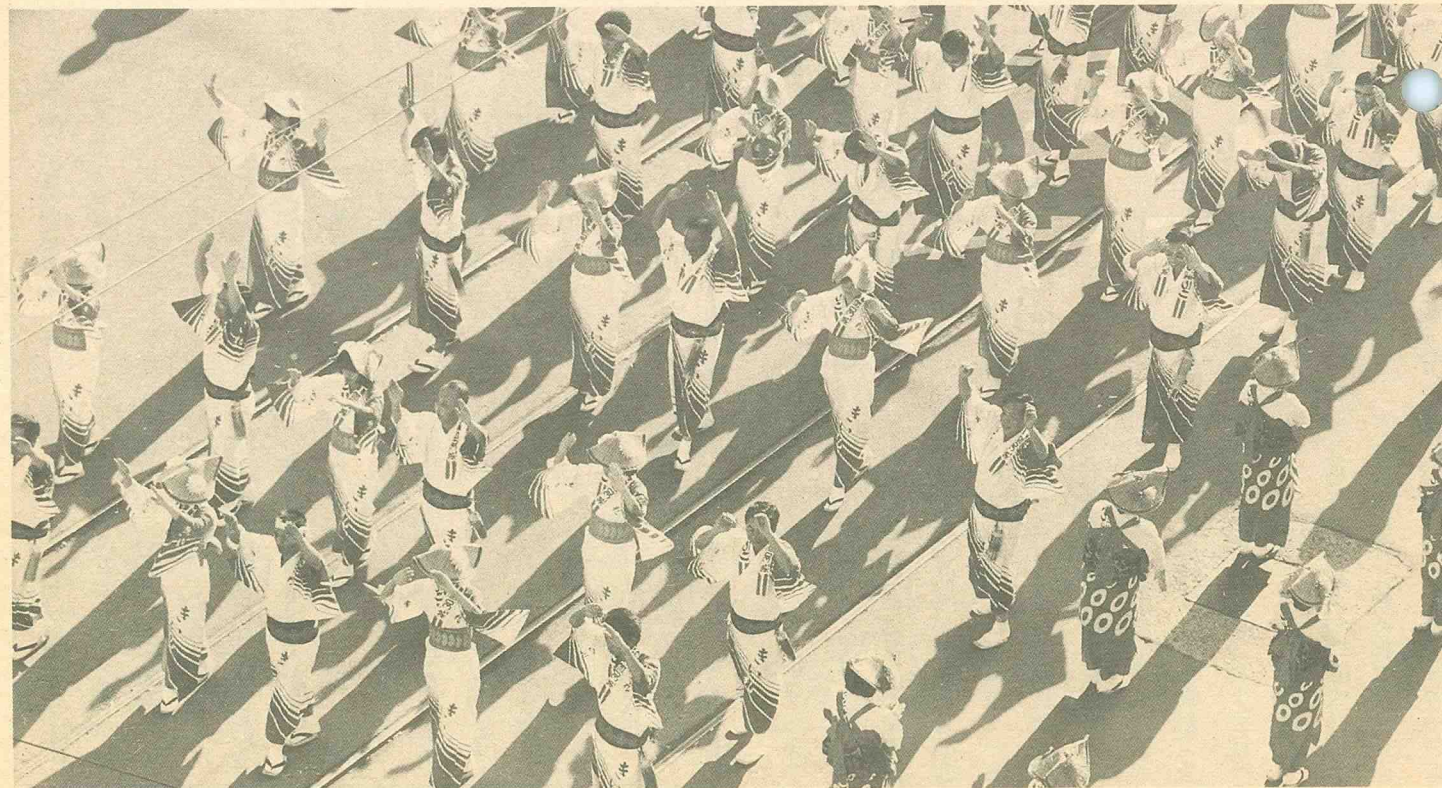


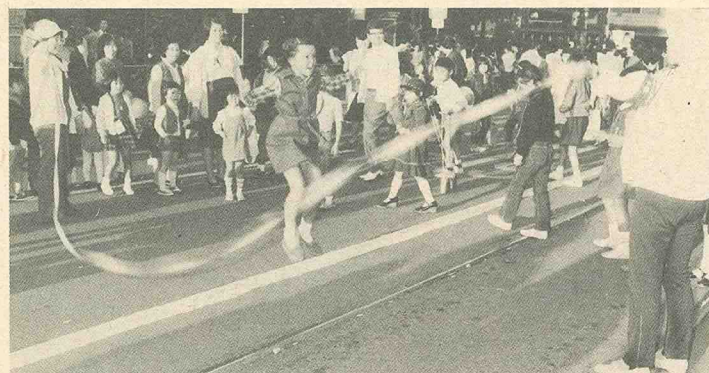
沿道は黒山の人だかり、街は県内外から集まった五十万人の熱気に埋まった。チビっ子のかわいい踊りに、にわかカメラマンの視線が集まり、飛び入り外人さんのユー



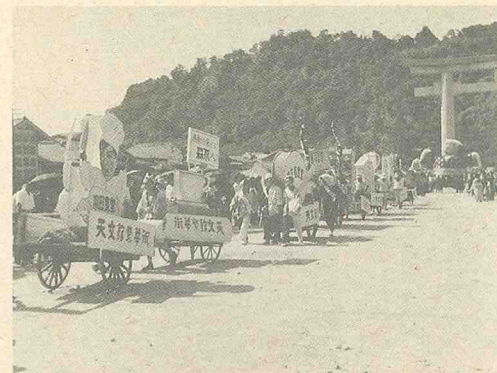
モラスなしぐさに笑いがこぼれる。この日はやはり車道から車をシャットアウト。踊る人、見る人、みんな一つになって「おはら」でフィバー・フィーバー。







おはら祭 いま、昔



思い出のおはら祭

今年で二十六回目の参加です。子どもにも、飽きもせず毎年がんばること、冷やかされますが、毎年、おはら祭が近づいてくると心はずみます。おはら祭やハンヤ節は調子が軽やかで、何かしら心を浮きたせるものがありますね。参加したての頃は、おはら祭とはいっても、広告仮装した車のパレードが中心で、踊りはまだ脇役、踊り手も地区の婦人会が主でした。私も清水町の地区婦人会の

まとめ役の一人として参加しましたが、戦後まもない頃でしたから、参加するにも揃いの衣裳がなく、近くの風呂屋さんやデパートなどにお願いにまわり、宣伝用のユカタなどを借りて出たこともありました。いま思えば懐かしい思い出ですね。また、町内会として初めて出た三十六年のおはら祭は特に忘れられません。雨にたたられ、ユカタの下までビッシヨリ、ぬれネズミになりながら、ナポリ通りから市役所前まで踊りぬきました。幸いに気が張っていたせいか、カ

ぜはひきませんでした。あの時はもう今回で出るのをやめようかとも思いましたが、次の年はやはり参加しました。そういえば、雨のおはら祭は大変珍しかったですね。昔は踊りの順番はくじ引きで決まりました。そのうえ、パレード方式でしたから、早い順番を引き当てるか否かが、とても重大でした。一番最後のくじでも引き当てようものなら、どこの連でも帰りが遅くなると、非難ごうごうといったところでした。

清水町 下条しずえさん(72歳)

おはら祭のルーツは？

夕闇に浮かぶ市庁舎のイルミネーション。揺らぐうちんちんの波。昭和二十四年十一月十五日。第一回おはら祭は、戦後はじめてのちようちん行列で幕をあげた。祭りの呼びものは広告仮装行列。行列の初日は雨の中で行われた。先頭は人力車に乗った勝目市長。ほおに紅をさし、ほおかむりに半てんのいで立ち。後には、デコレーションカーとにぎやかなぎおん祭の山車(だし)が続く。翌日は、市内六か所に設けられた仮設舞台で芸

能大会。この間、トラックの移動演芸隊が各所でおはら祭の気分を盛りあげた。十五日から二十五日まで協賛大売出しも行われ、十日間の幕を閉じた。このおはら祭は「よそには、長崎くんち」とか、博多どんたく」といったその街を代表する祭りがあるが、鹿児島にはこうした祭りがな

なにかと物資不足。それだけに準備も大変だったとのこと。勝目市長が着たハッピも、消防からの借りものだったという。以来、ことしで三十回目。この間、二十五年は伊敷、東桜島村との合併記念。二十六年はその頃、流行の自転車競争なども加え、七日間の予定だったが、ルース台風で中止。二十七年は、西郷南洲七十五年祭を記念。おはら祭のパレードが登場。二十八年は、商工会議所創立六十周年と大島復帰を記

念、高校マラソンも登場した。

二十九年には、春のみずは祭農村関係慰安行事、夏の港まつり、秋のおはら祭が統合され、おいどん祭と名前が変わった。三十年は、二十二号台風でオジャン。ところで、三年間続いたおいどん祭は、行事内容は盛りだくさんになったものの、三つの祭りの関係者の中で開催時期で意見がわかれ、三十二年からは、元のおはら祭にもどった。このような曲折の中で、祭りは次第に低調となり「おはら祭はやめてしまえ」の声さえも出る始末三十五年、おはら祭へのてこ入れ

として、主催を従来の市、商工会議所、南日本新聞社三者中心から「おはら祭振興会」主催へと変え、祭りもおはら祭のパレード一本に絞ったが、今一つ盛りあがりに欠けた。祭りが大きく変わったのが三十六年。徳島の阿波踊りを手本に、現在の「踊り連」方式をとり入れたのが大成功。これまで、おはら節のパレードといえば婦人会が中心であったが、この「踊り連」方式により町内会や職場グループなどからの参加者が急増。祭りの性格も商工振興策から市民レクリエーシ

ョンへと変わり、南九州最大の祭りへの第一歩を踏み出した。その後、三十八年には踊りの曲目にハンヤ節も加わった。四十二年は明治百年、新市発足を記念。西郷どん行列が登場した。祭りの日を十一月三日(文化の日)にと決まったのが四十三年のこと。四十八年には、これまで西郷、鹿野、松方橋の三か所からスタートして照国神社まで、踊っていたパレード方式を、高見馬場から朝日通りまでの繁華街から車をシャットアウト、歩行者天国で踊る祭りへと姿を変えた。

おはら節、ハンヤ節の由来

●おはら節

花は霧島 煙草は国分

燃えてあがるは桜島

見えた見えたよ 松原ごしに

丸に十の字の帆が見えた三州(薩摩・大隅・日向)の領主島津氏が慶長十四年、琉球入りしたとき、安久(今の都市安久町)の郷士も従軍した。彼らは、戦の合い間に郷里に伝わる安久節(ヤッサ節)を歌っていたが、薩摩の郷

●ハンヤ節

はんや はんやで

今朝出した船は

はんや はんやで

はんや はんやで

半年アくれた

後の半年アねてくらす

ハンヤは、繁栄の意と説くが、

単にハンヤ、アンヤ、アーエ、イヤハー等と同じく、打ち出しの自然な掛け声と考えられる。長崎県平戸付近の田助、天草の牛深、鹿児島島の阿久根と、それぞれが発祥地と主張しているが、長崎県田助で船頭たち相手に生まれた騒ぎ唄「ハンヤ節」が元祖。これが東北でアイヤ節、ハエヤ節、アエヤ節となり、越後おけさ、佐渡おけさへと発展し、さらに宮城、岩手、青森の塩釜甚句となり、津軽オワラ、伊豆大島の大島節、鹿児島ハンヤ節、となったと考えられる。

人物登場

鹿児島オペラと取り組んだ努力と情熱は、この秋、鳴りやまぬ観客の拍手となって実を結んだ。

地方では困難とされるオペラに挑んで九年。

「カッとするくらいの情熱がなければ、水準の高いオペラはつくれない」と、六十人もの会員、研究生を引っぱってきた薩摩女の顔に、やっと自信の色が。

●鹿児島オペラ協会会長
あり ま ま り よ

有馬 万里代さん

鹿児島市出身。旧鹿児島二高女から東京芸大師範科卒。鹿児島大学教育学部付属中、同付属小教諭を経て二十八年から鹿大非常勤講師、三十

さる十月四、五の両日、県文化センターで披露した秋の公演。一度、研究公演として扱ったグリム童話の「ヘンゼルとグレーテル」を今度は初の県総合芸術祭参加作品として上演した。世界中の子どもたちに夢を与えてきた題材だけに、子ども向けのオペラとして、衣裳や照明に思いきって緑や黄色の原色を使い、舞台のあちこちに楽しい仕掛けを織りませた。おかげで子どもたちは大喜び。二日間の上演で、鹿児島オペラ協会では初め

て観客が二千人を超えた。もし、すぐおもしろかった、と思ってくれた子がいたら、将来は熱烈なオペラファンになるかもしれない。鑑賞して、自分も舞台に立ちたい、と思った子がいたら、オペラ歌手の道に進んでくれるかもしれないとも。

こへ、四十二年、県内で初めて音学科を置いた鹿児島短大の誕生。爆発的に音楽人口が増え、次はオペラとして昇華しよう、という機運が高まった。

直接のきっかけは、現在、同協会事務局長の野村三郎、鹿児島短大教授からの誘いだっただけで、「イタリアオペラをみて感動した、といつても、実際に公演するには優秀なスタッフ、キャスト、それに膨大な資金も必要。ちゃんとしたオペラをみせないと、逆効果になつて観客が逃げていく」と反対、少なくとも、日本で最高のスタッフをそろえなければと条件をつけた。すると、野村教授は、オペラの演出家としては第一人者の栗山昌良氏をあっさり口説き落とし、一流の指揮者、舞台監督らの協力も取りつけてきたという。

旗上げとなった四十八年二月の「セヴィリアの理髪師」の公演を皮切りに、今秋の「ヘンゼルとグレーテル」まで、公演回数は実に六十回を超えた。

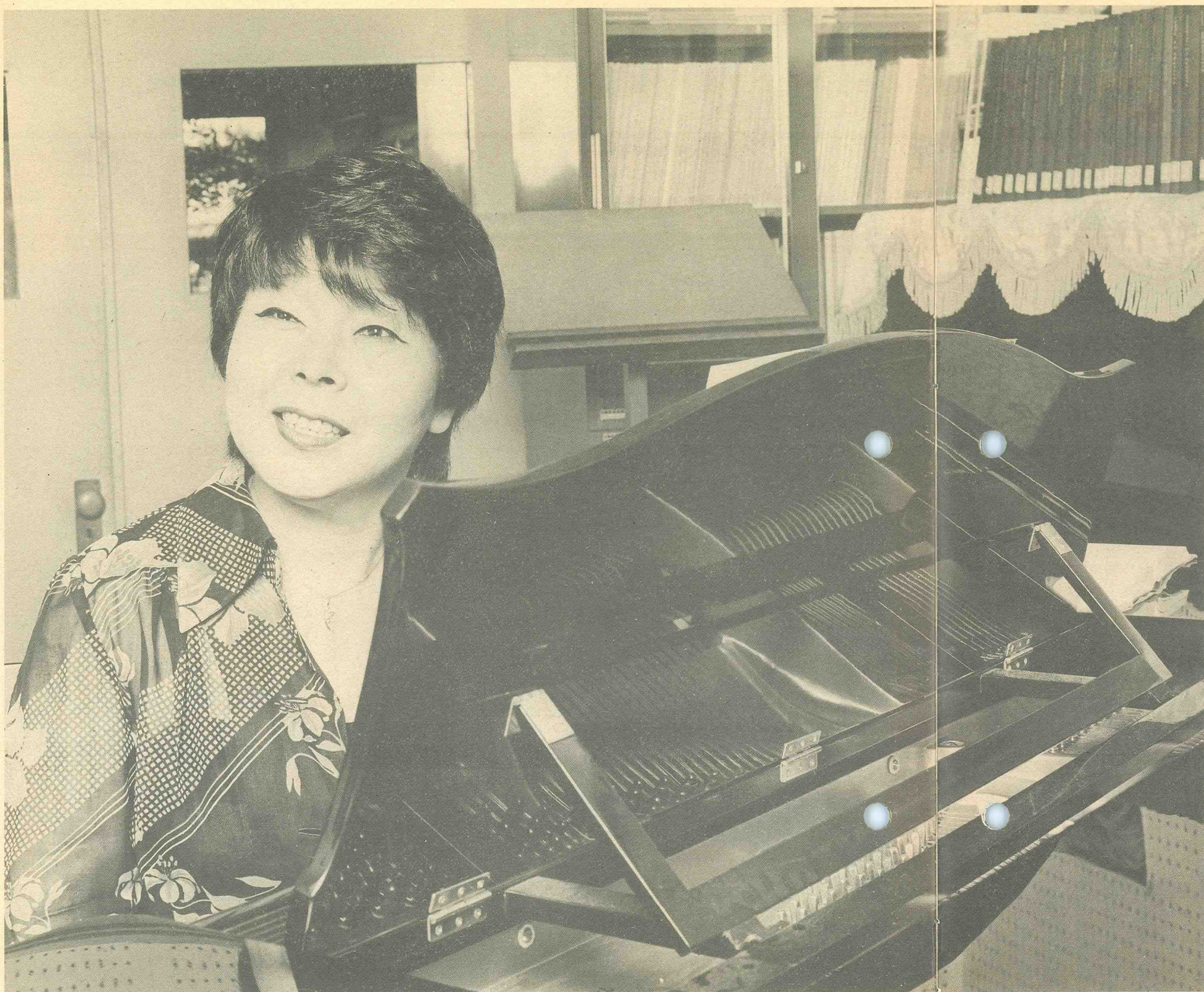
来年の夏に発足十周年を迎える。その記念公演として、十月十、十一日の両日、奄美大島に伝わる悲恋物語「カントミ」を題材にした、初めての新作オペラを上演する。

「派手で華々しい時代は、努力も我慢も苦痛ではなかった。十年の節目を過ぎてからが本当の正念場。周囲の期待もいつそうふくらむだろう。」

そこで、会長の役目は「居心地のいいオペラ協会にするつもりはない。実力のある人だけに開かれた場。人情で役を与えてしまうと、際限なく鹿児島オペラは墮落する。不満だったら、『ぶんどれ』といいたい。」

地方のオペラ、地方の文化の成長する道は、ぬるま湯でない逆境にあつてこそ、開かれることを改めて知らされた。

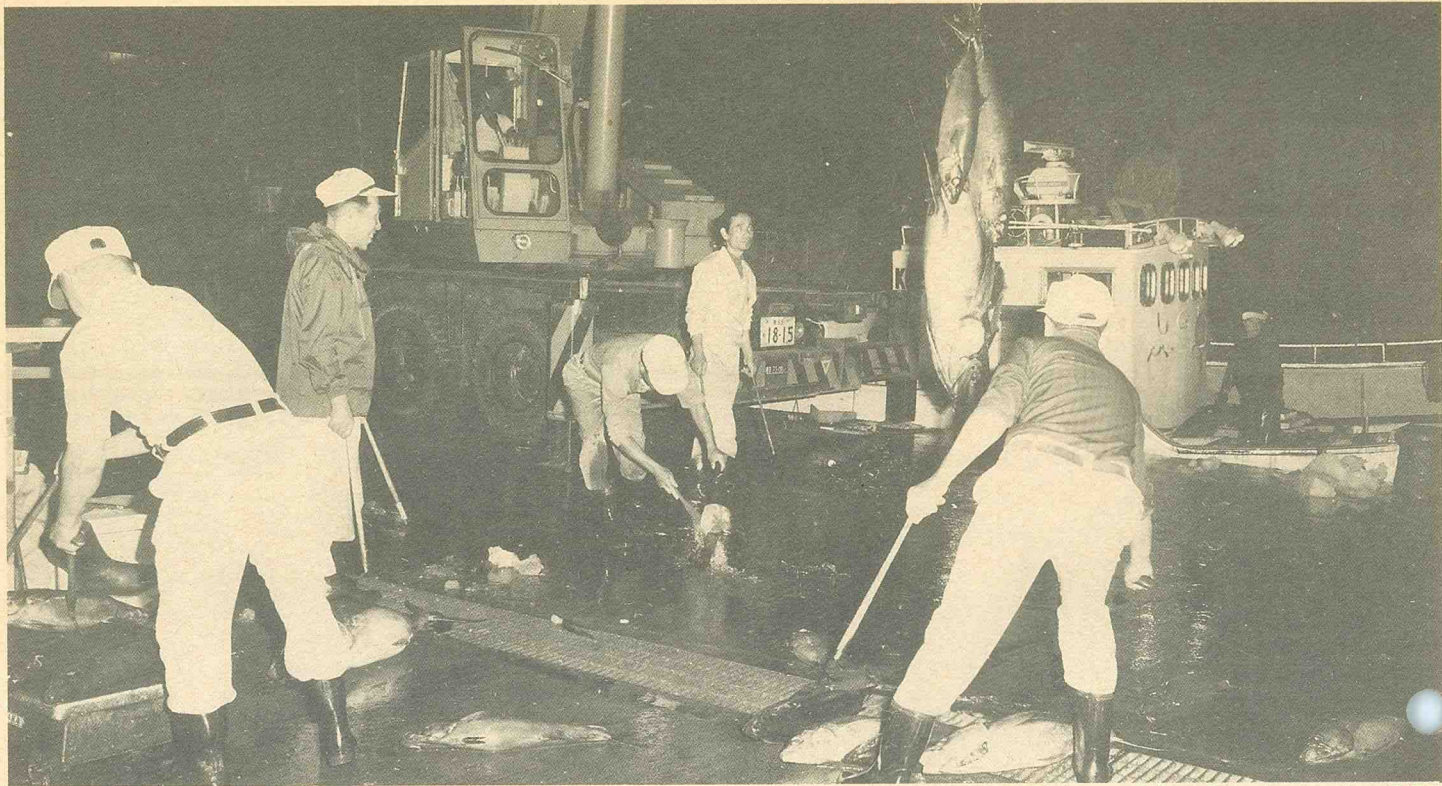
文／北沖 弘和
朝日新聞社記者



撮影／三井五男

ぼくらの施設めぐり

魚類市場



午前2時、遠洋から帰った船からマグロの荷揚げ



午前3時、深い夜のときの中、ここだけは活気がみなぎる



ぼくとどっちが大きいかなあー。



真野市場長から説明を受ける南さん(左)と富田君(右)

昭和十年十一月、九州で最初、全国でも七番目に開設された市中央卸売市場。この古い歴史を誇る市場で、魚類市場は南方漁場に近いうちの地の利を得て、年々、取扱量も増加している。

今回は、城南小学校六年生の南佳代さんと富田隆秋君の二人に訪問していただきました。

十月十一日、朝七時半に魚類市場の見学に行った。この市場は、私達の地域にありながら、まだ一度も行ったことはなかった。私達の胸はずんだった。

市場に入るなり、魚の種類の多さにびっくりして、まさに、魚の展覧会だと思った。場長さんの

話によると、ここに水あげされる魚は四百種類にもものぼるそうである。最も多くとれるのは「きわだまぐろ」で、その量は年間八千トンにもなるそうだ。市場の岸へきには、漁船が何艘もつながれていた。これらの漁船で働く人達は、夜中から漁に出るということである。私達は、まだぐっすりねむっている時間である。また、この市場では鮮魚だけでなく、加工食品や冷凍食品も多くあつた。

市場の中はすぐきれいで、衛生的であった。ほとんど、男の人達だけの世界である市場なのに、やはり商品でもあるし、消費者に対する思いやりの表われなんだなあと感じた。

このような素晴らしい魚類市場が私達の地域にあることは、とても心づよいことです。

そして、今度はみんなで一緒に出かけ、もう少しよく見学したり、写真もしてみたいと思った。

文／南 佳代
富田隆秋



午前9時、漁船の人達は遅い眠りについた



午前10時、小売店に魚を卸す仲卸店の建物内



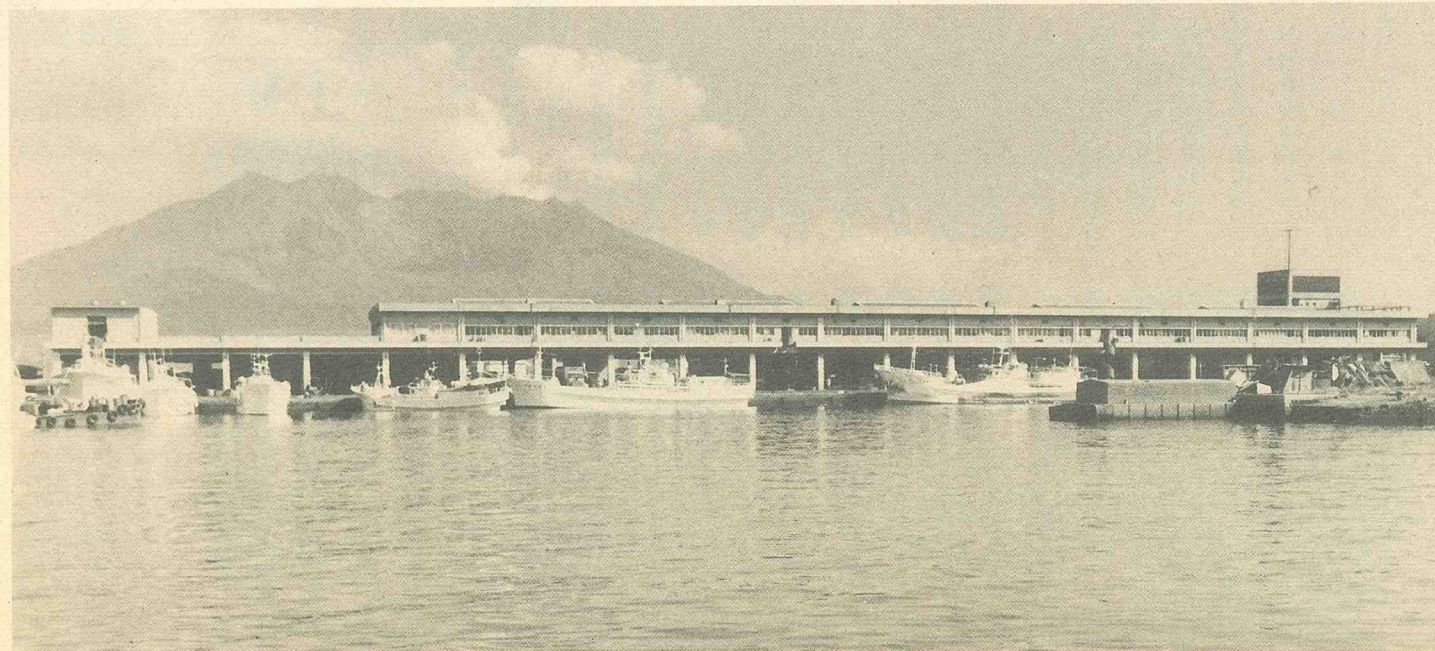
午前5時30分、市場にはとろせましと魚が並ぶ



午前6時、仲買いの人達が下見に来る



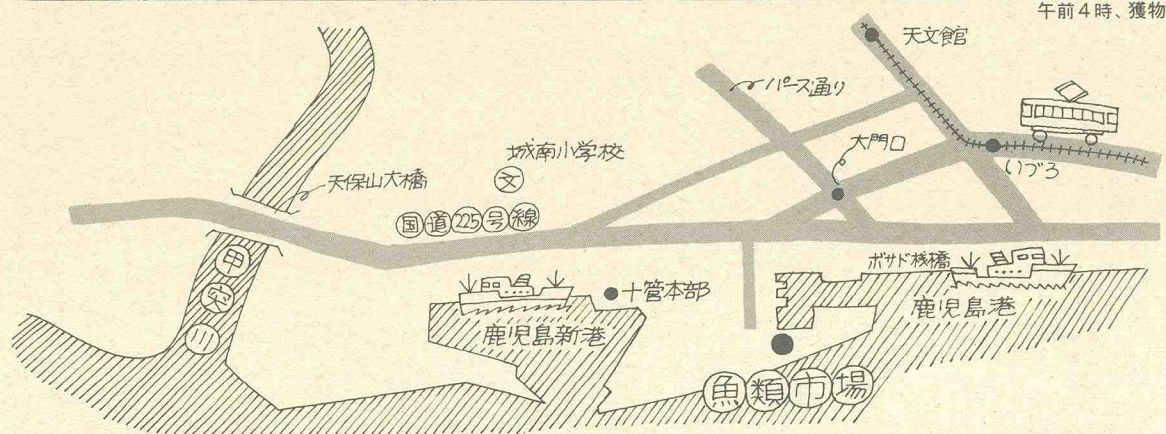
午前6時30分、鐘が鳴って、かけ声も勇ましくセリが始まる



午後3時、市場は静けさをとりもどした



午前4時、獲物のさばをたも網で船倉から魚箱へ



午前5時、産地からトラックで運ばれたエビも出番を...

市民のひろば

TV
放映

「市民のひろば」は、MBCから放送されます。放送日時は、毎月第三日曜日を除く、日曜日の午前八時から十五分間。ただし、第四日曜日は三十分間放送。

海外に学ぶ若者たち

観光白書によると、昨年一年間に海外に出かけた人は全国で約四百万人。最近ではレジャーに限らず、研修の場として外国との交流が盛んに行われるようになってきました。

そこで今回、外国に学ぶ機会に恵まれた若い四名の方に、印象に残ったこと、経験したこと、有意義な体験をどのように生かしていくか、などについて語っていただきました。



高島 市長さん、今日は「海外に学んだ若者たち」というテーマでお話しを伺いたいと思いますが、最近、若者の間では外国に出かけて見聞を広めようという方が随分増えてきたような気がするんですが、そういった若い皆さんをどう思っているのでしょうか。

市長 日本が発展してきた跡をみますと、外国との接触の後に大きな飛躍があるわけですね。大陸文明を受け入れてきた中世時代、ヨーロッパの文明が吸収した時代、アメリカの文明が入ってきた戦後、日本はその都度、躍進をしてきたのです。

その中で、青年は若い感受性と行動力をもって外国の知識を吸収

し、外国との間につながりを保つことに大きな役割を果たしてきたのです。

これからは、外国に学ぶ時代から、外国人との間に新しい信頼と友情をつくりだす時代だと思えます。外国人を恐れない、よく理解する、青年像というものができあがっていなければいけないと思うのです。

高島 ここにお越しの四人の皆さんも外国にいらつしゃって経験なさったこと、あるいは楽しい思い出などあるのではないかと思います。そういうお話しを伺わせていただきます。

向こうで生活して

葉の苦労は……



●高島さん

しました。(笑)

市長 下前原君は交換学生としてパースに行かれたわけですが、向こうの英語はどうでしたか。

下前原 オーストラリアの英語は独特のアクセントですが、大体わかりました。しかし、教室では先生のしゃべるスピードが早くて、ついていくのが難しかったです。

市長 おもしろいですからね。「こんにちは」というのは「トゥダーイ」と言うでしょう。「死んだ」というのかと思えば「こんにちは」なんてね。(一同笑)

それでは、有園さん、実際、生活をしてみて特に印象に残ったことは何でしたか。

家族同様に迎えてくれる
心の広いアメリカ人

有園 まず、アメリカ人の心の広さに驚きました。私たちをお客さんとしてではなく、家族の一員と



●市長

して迎えてくださったのです。風俗や習慣も違う私たちを日常生活の中に引き入れることは難しいと思います。それを何気なくやってくださるのです。人を許す範囲が大きく、心の広さを感じました。

また、父親が大変、家族を大事にするということです。日本では家族のめんどうは母親にまかせられているのですけれども、アメリカでは、父親と母親が一緒になって家庭を育てています。

それに、向こうに行つて気がついたんですが、アメリカの方は歴史の長い日本のことを大変うらやましがっています。ですから、私たちはもつと日本の文化や日本人のもっているものを誇りに思うべきだなあと思いました。

市長 なるほどですね。下前原君の場合、パースで過ごしてどういうことを感じましたか。

下前原 日常生活を見ていると、以外と質素なのです。食事に対するお金のかけかた一つにしても、合理的だなあと思いました。

それから、日本の製品、特に車とか電卓など相当出回っていて、日本の工業力のすごさというものをあらためて感じました。

市長 それでは、あちらの若者についてどういうことを感じましたか。

有園 まず、小さい子どものうちから大変、独立心が強いということではないでしょうか。それから向こうの同世代の人は、みんな夏休み中仕事をもっているのです。自分で稼いで、自分で買うというのがごく当たり前になっています。

だから、私が「持っている洋服とかカメラは両親に買ってもらった」といいますと、大変うらやましがっていました。私は恥ずかしい思いがしました。



●有園さん

それから、精薄施設を見学に行つたんですけれども、人との接し方というのが上手で、私たちと一つや二つしか違わない人たちなんだろうかと思いました。

日本と違う

学生の勉強の意欲

下前原 体験して一番強く感じた

出席者(敬称略)

有園さおり

下前原 隆

永野 博子

宇都 正博

山之口安秀

鹿児島市長

司会

高島 康子

ことは、勉強に取り組む姿勢が日本と全然違うということです。日本は受験のための勉強という感じなんです、向こうの学生は強制されることなく、自発的に、一生懸命勉強しているのです。これが本当の教育だなぁと思いました。

市長 なるほどですね。それから、子どもに対するしつけとか、親のきびしさというのは気がつかれなかったですか。

有園 はい。言葉づかいひとつをとってみても、おかあさんに食事の「おかわり」を促された時、「いら

九州青年の船で中国に行かれたわけですが、研修のテーマは何だったわけですか。

永野 はい。「女性の生き方」というテーマで中国を見てきました。

市長 中国では、男性と女性は同じ質の労働をしていますか。

永野 そうですね。日本では、ちょっと考えられないような女性だけの工場の中でも汗と泥にまみれながら皆さん一生懸命働いていらつしやるのです。日本、特に鹿児

島では男性は一步家庭に入つてしまつと、もう何もしないというのが多いわけですが、向こうの場合

は共同で家庭の仕事をもっているのです。本当の男女平等のきびしさを目の当たりにみた感じがしました。

市長 次に、宇都さんは産業青年派遣生として、ヨーロッパを訪問されたわけですが、研修のテーマは何だったのですか。

宇都 「商店経営」というテーマで参加しました。

市長 そのようなところを見てきましたか。

お店が街並みの雰囲気にもマッチしてとても……

市長 それでは次に、永野さんは



●永野さん

宇都 あの一、非常にすばらしいと思ったんです。(声をはずませて) それぞれのお店が街並みの雰囲気

にびつたりあつていいのです。けばけしい宣伝もないし、日本がよく見かけるように、歩道にワゴンを出しているというようなことはないのです。

また、ヨーロッパの商店というのは、しっかりしたオリジナルティを持つてい

ています。店の陳列一つをとってみても、ショーウィンドウに飾つてある洋服の色と街の色がマッチしているなど、独自の経営方針というものを既に持つ

ています。そういう所を自分の立場で考えていくべきではないかと思いました。

市長 永野さんの場合、日本の若者との違いについて何か感じられましたか。

永野 そうですね。日本の婦人の

場合は、家庭の中で個人のための勉強というのが多いのですけれども、中国の場合は、まず国家という前提があるのです。四つの近代化をめざすために勉強をしていて、どこに行つても「我々は国づくりのために働いているし、今、一生懸命がんばつてい

るのだ」という声がかれたのです。そこが大きな違いだなぁと思いました。

市長 それでは、最後に中国やヨーロッパの旅を終えて、どういう感想をお持ちか、一言ずつお願いします。

目的をもつて生きることの大切さを……

永野 はい。私の場合は、いかに日本が自由であるか、豊かであるかということを感じました。それと、中国をみて教育に相当力を注いでいるのを見ると、今後大きく発展するだろうと思いました。そ

れから、目的をもつて一生懸命生きるということがいかに大切かを知りました。

市長 宇都さん、何かありませんか。

宇都 これからは低成長の時代といわれていますが、社会状況や他人の意見に惑わされることなく、しっかりとした経営の信念をもつて着実に歩んでいくことが重要になるのではないかと思います。

高島 皆さん貴重な体験をされたようですね。市長さん、お話を聞かれて感想はいかがですか。

市長 今、四人の方々のお話を受けたまわりまして、非常にうれしく思いました。研修の効果が大きいにあつたと、私は評価したいわけなんです。若い皆さんが本当に身をもつて外国人と接し、体験をされたことは、大変意義深いものがあると思います。



●宇都さん

今後、鹿児島は国際観光都市として発展し、外国の方々が訪れることになりましたから、大いに勉強していただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

高島 今日はどうもありがとうございました。

奥様こんにちは

「ピアノ一筋の人生を送ることが夢でした。」とはにかむ……。

学生時代はピアノに明け暮れた毎日。当時、ピアノは学校にしかなく、朝五時に忍び込んで、受験

のための練習をしたエピソードも。

その一途な情熱が、一人の男性との出会いで変わった。夫君の照好氏（鹿児島短大教授）である。「音楽の良き理解者であり、頼りがい



短大講師（ピアノ）大野照子さん



があつたんです」と。結婚への後悔はみじんもなく、満足そう。

現在、三人の子供の母親、短大講師、ピアニスト（グループ・沙羅）ホームレスと、見事に両立させている。

多忙な日々の息抜きは、ドライブと、団長を勤めるお母さんコーラス「めぐみ」でのひととき。運転歴は十年。かなりのスピードマニア？過去に苦い経験も……。コーラスではピアノのプロも首をかし

げ、苦笑いもしばしば。メンバーのお母さん達との「おしゃべり」は収穫も多く、子供のこと、ファッション、料理などの情報源に。

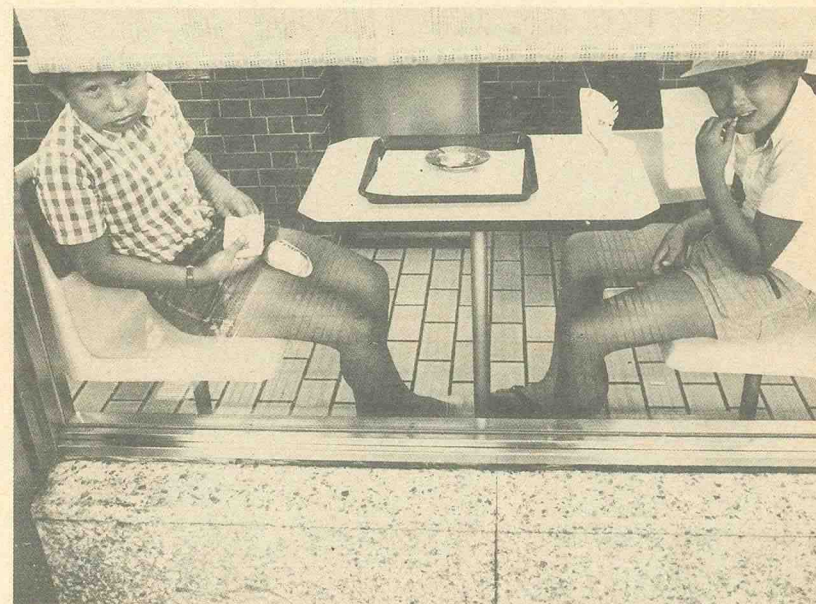
短大では「恐くて厳しいと言われている。甘えや中途半端なことはいやです」とキツパリ。生徒の将来を考えると、つい厳しくなってしまうらしい。

「今、新しい趣味を探しています」とのこと。チャレンジ精神旺盛な張り切りママさん。この先、何を始められるのか……。



あなたの

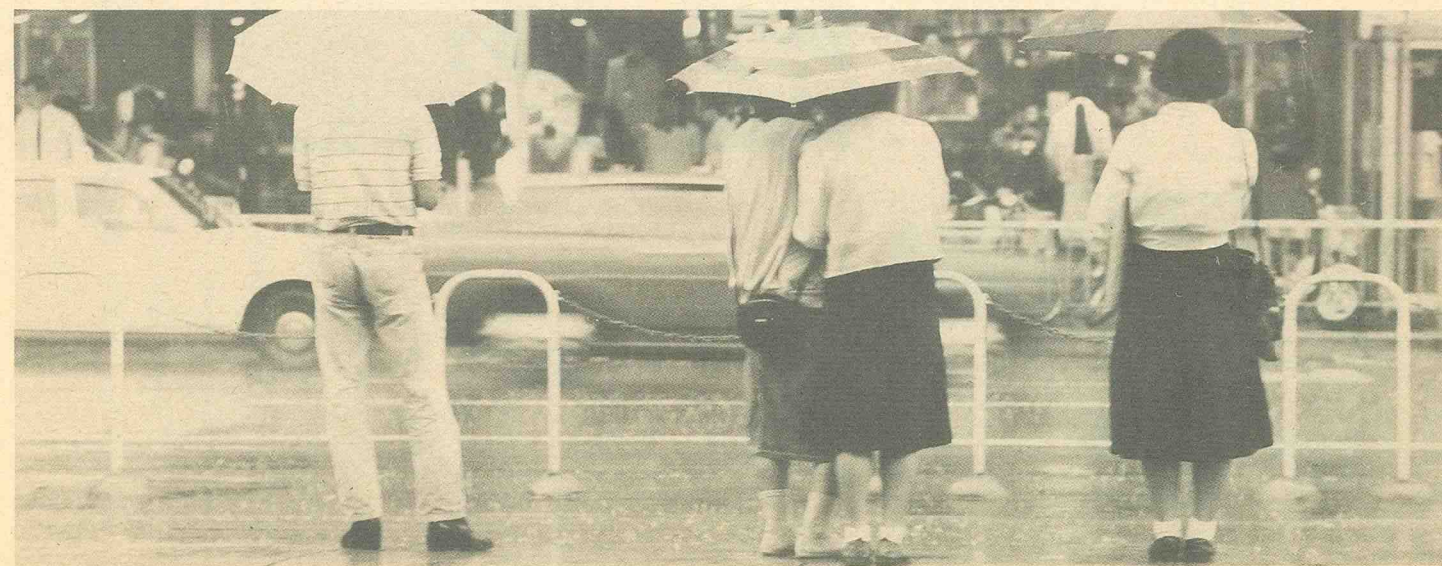
みずが



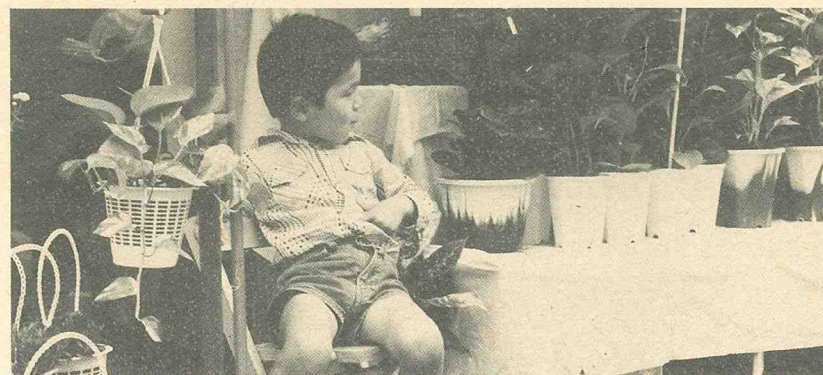
天文館

天文館は夜の王国だ。人々が寝
しずまる頃、メインストリートは
人の波で埋まる。
仕事を終えて家路を急ぐ人々。
一日の疲れをネオンに流して友と
語り、歌を歌う人、さまざまな思
いと生活をのみこんで、奇妙にけ
だるい華やかさが交差する。
東の空がうつすらと明るみ、一
番電車が車輪の音をひびかせる頃、
ようやく、夜と朝の生活が入れ替
わる。

写真と文／大沢勝正
荒田二丁目73-15



あなたの みずみず



本市は、明治十年頃から吉野の庭師たちが始めたという。今や鹿児島市の春、秋の風物詩のひとつである。

甲突川べりの市民広場には、休日ともなると多くの市民が訪れる。形の良い盆栽や鮮やかな色彩の花に上品な老夫婦、子どもに手をひかれて楽しそうな父親、仲良く腕を組んだカップルがオーバーラップする。

レンズを通して、そんな光景を見ると、緑を愛する人たちのやさしい目がとても印象的だった。



緑を求める人々

鹿児島銀行写真部・桜映会

平之町界わい

ビルの彼方に
桜島が暮れ行く

示現流宗家 東郷重政

散歩は忙しさから逃れるという
か、ぼんやりと何も考えずに歩ける
ところがいいです。歩いている
と、小路の突き当たりにある魔よ
けの小さな石碑・石敢当が目につ
いたり、いつの間にか家が建って
いるのを見つけて、以前は何があ
ったかなと考えてみるのも楽しい
ですね。

ザビエル公園では、リュックを
背にした若者や女性の観光客の姿
をよく見かけます。日本で最初に
キリスト教が伝えられた地という
ことが、若い人々を引き付けるの
でしょうね。

この前の通りが千石馬場通り。
島津藩の主だった人たちの家が軒
を並べていたことでしょう。

この辺りは繁華街に近い静かな
住宅地で、どこからでも桜島が望
めるいい環境でした。しかし、ビ

ル建設が相次ぎ、ずいぶん変わっ
てしまいました。

いつもは、こんな裏通りにまで
車が入り込んで来て騒がしいので
すが、日曜日の朝は静けさを取り
もどすんです。

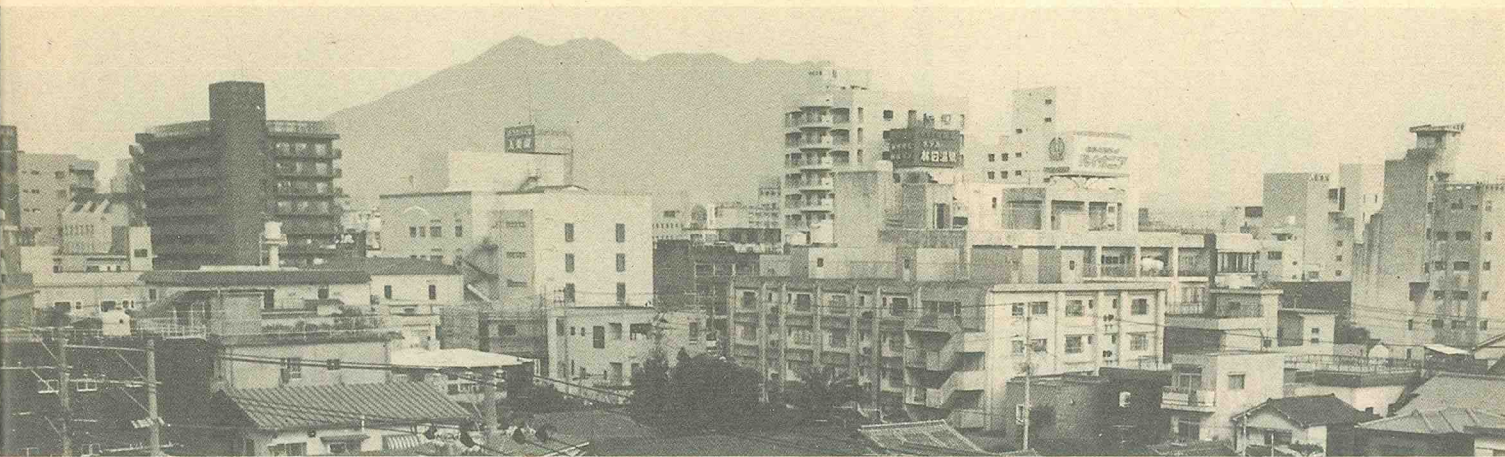
城山の紅葉を眺めたり、冬の朝
にはツグミやヒヨドリ、それにモ
ズの甲高い鳴き声が聞こえて、い
いものです。

冬といえば、近ごろの冬は割合
に暖かいと思いますね、昔に比べ
て。最初に示現流を教わったのは
数えの五つの時ですが、きつかつ
たですね、けいこは。

昔はよく霜柱が立つし、霜柱の
中に小さな足跡が五センチぐらい
残っていました。その中でけいこ
をしたので、霜焼けやあかぎれが
出来て……。

平田公園の銅像を見上げると、
木曾川治水工事を成し遂げた薩摩
義士は偉かったと思います。

ああ、岐阜県の海津町の方々が
植えてくださった桜につぼみがつ
いていますね。春の散歩が楽しみ
です。私は桜が大好きで……。散
り際が良いのがいいですね。(談)



取材メモ

「二の太刀を疑わず、二の太刀は
負け」という薩摩の剣法・示現流宗
家の十一代師範。本職は郵便局長
で、傍ら、テレビに、新聞に、古
武道振興をと忙しい毎日。

散歩は二宮橋通りの自宅から照
国神社か、平田公園辺りに出掛け
るとのこと。道すがら、技と精神
を熱く語りながら。己に厳しく、
他人に優しく、そんな人柄を見た。



わたしの散歩道

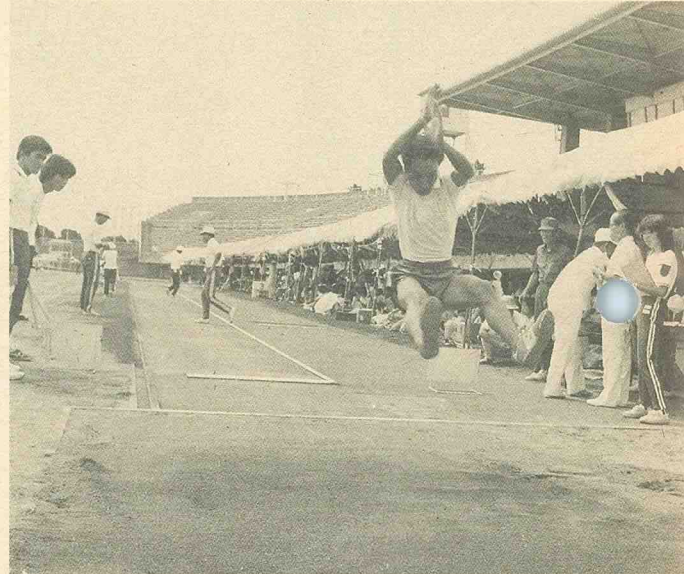
8月25日・サマースクール

サマースクールには子どもたち約60名が参加し、動物の生態について勉強しました。人気者の「公平君」も仲間入りし、そのやんちゃぶりを発揮しました。



9月7日・第14回市身体障害者体育大会

この日、県陸上競技場に15歳以上の体の不自由な人たち約200名が参加。砲丸投げ、走り幅跳び、100m走などに汗を流しました。



10月4日・持明さあのお化粧直し

心優しく、女性のかがみとして慕われた持明さあ。10月5日の命日を前に市女子職員がおしろいと口紅を塗り、花を供えて霊を慰めました。



10月7日・おじいさんとおばあさんのレクリエーションバス

この日、約100名のお年寄りが参加。少年自然の家では風船割ゲームなどに興じ、秋の一日を楽しみました。

9月18日・英国海軍司令官が市長を表敬訪問

英国海軍駆逐艦「アントリウム号」が鹿児島港に入港し、ジェンキンス少将らが市長を表敬訪問しました。



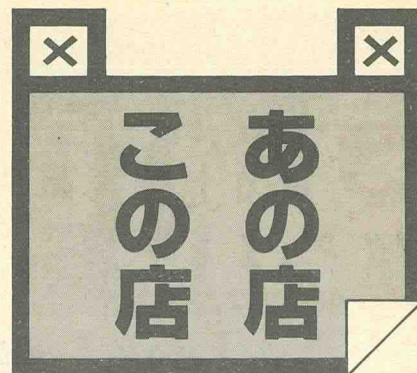
9月29日・長寿者祝金を贈呈

この日、満100歳の誕生日を迎えた則アグリさん(市内下福元町老人ホーム・美樹園)に長寿者祝金20万円と祝状が贈られました。



10月5日・市民芸能祭

民俗芸能の保存会やモダンバレエ教室など市内の14団体、約250名が参加し、踊りやわらべ歌などを披露しました。



重吉そば

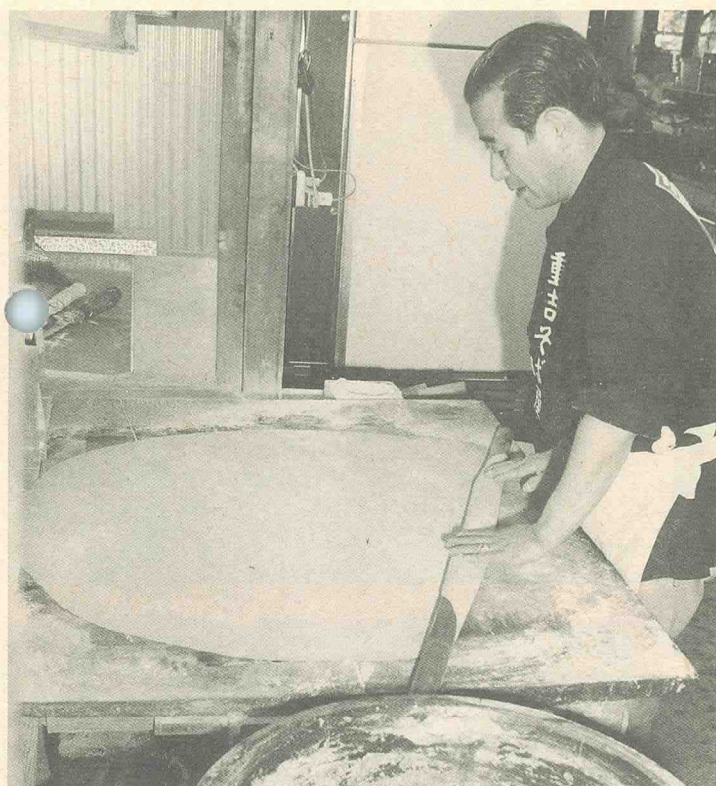
上福元町・国鉄谷山駅前

独特の甘い香りと柔らかい舌ざわり、おふくろの味というべきか。素朴なしつとりと落ちついた、なつかしい味をいまに伝える。

「重吉そば」は創業七十年。先代磯辺重吉氏が母の手づくりのそばを見よう見まねで覚えて、売り出した手打ちそばである。

良質のそばの粉に、近くの山からとれる山イモを練りあわせて作るそばに、だしはいりこ、しょうゆに砂糖で作るとか。

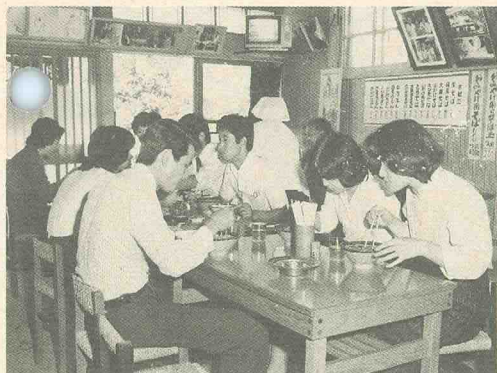
国道225号の通りに面した、どこにでもあるような木造りの家のれんをくぐる人は買物の奥さんにOL、年配のご夫婦に観光客も交じる。誰にでも、気やすく話しかけたくなるような店である。



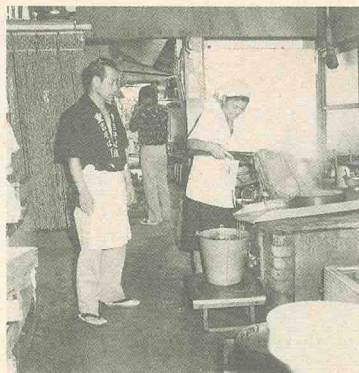
均一になるように生地をのばす



刻む手に職人芸をみる



おふくろの味と大評判



ゆで加減が勝負



昔ながらのたたずまい

編集後記

▼「フォト」に対する多くのご意見、とても励みになりました。よりよい誌面づくりにと、一同改めて気を引き締めた次第です。

◇ すてきな冊子ができてうれしく思います。これからも、素晴らしい美術館の収蔵品や史跡のことなど、子供達にもわかるように紹介してください。(紫原三丁目・浜田正子)

◇ 市政や施設のこと、町の話題など、いろんなことをフォトを通じて知ることができました。親しみもてる、とてもいい冊子です。早速、店において多くの人に読んでもらっています。(加治屋町・すづ美容室)

▼今年もいよいよ最後の月がきました。師走、極月、限月など十二月の異称は、年の暮れの生活の慌ただしさを感じさせます。「終わりをければすべてよし」ともいいます。仕上げの月・十二月を丁寧に過ごしたいものです。

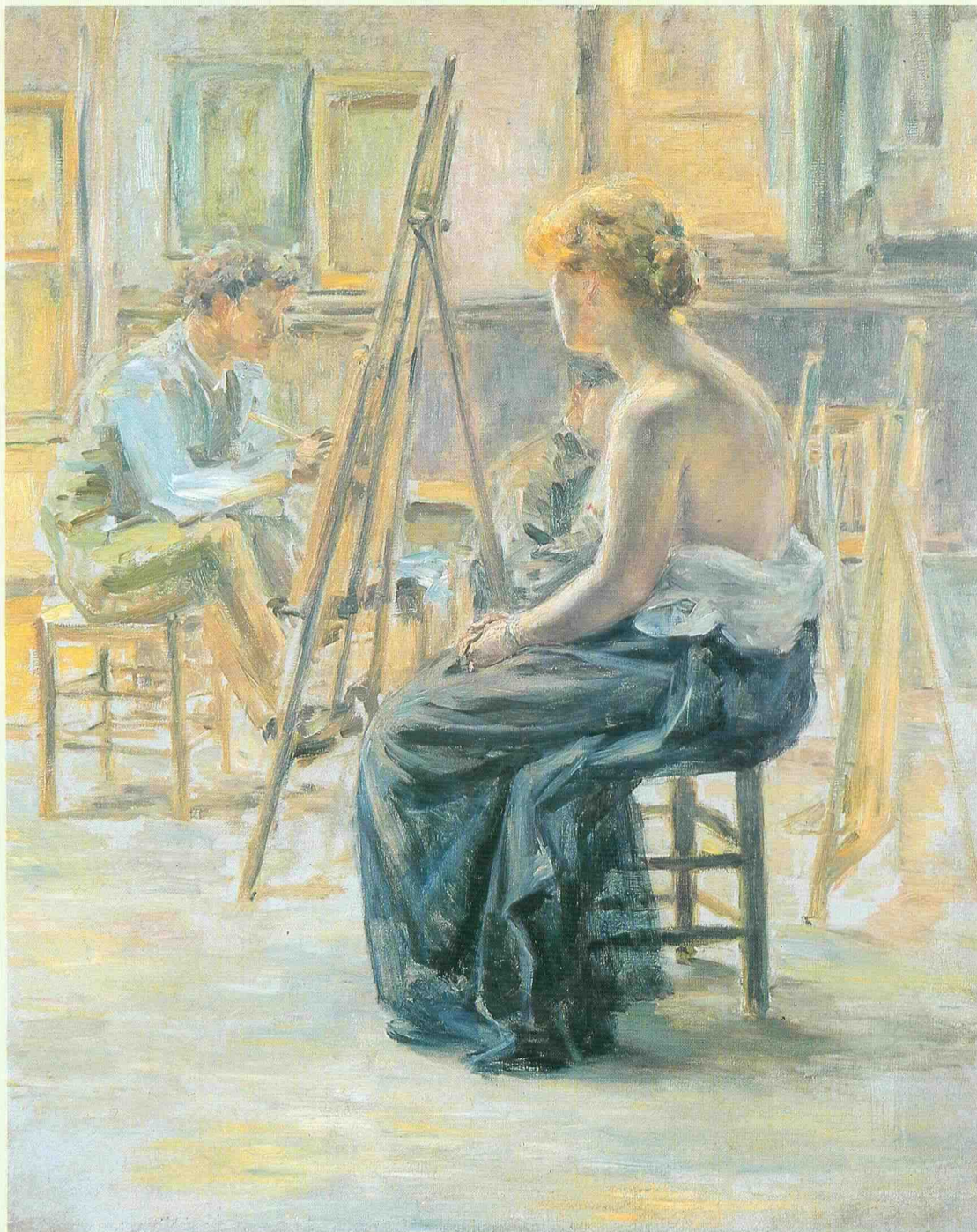


市立美術館

アトリエ (油絵・二十号)

黒田清輝 (明治二十三年)

〈作者〉黒田清輝は、慶応元年鹿
児島市高見馬場に生まれ、伯父黒
田清綱の養子となり、上京、明治十
七年フランス留学、法学を修め
ながら洋画を学んだが、後ラファ
エル・コランについて専念した。
「読書」「朝妝」がサロンに入選。二
十六年帰国、東京美術学校の西洋
画科、天真道場、白馬会等を創立、
その間に多くの名作を残した。



市立美術館

館長 川村 純 二

〈解説〉黒田は、もれる太陽の光線、夕ばえの空の光を好んで描き、また、逆光の中による人物もしばしば描いているが、この「アトリエ」でも、モデルの女性の、斜めうしろの背中と、前面の顔と背から肩を経て腕にあたっている柔らかな光線、スカートのひざに当たる光線と、その陰影とを対比させて、静かなアトリエのなかの美しいハイモニーをかなでている。

色調も、滞仏時代に多い青色調で、モデルの上半身の裸体部分と美しい諧調を見せる。

構図は奇をてらわず、色調も穏やかな中間色を用い、アトリエのふんい気がそのまま伝わってきて、見る者に、画中の人物の息づかいや絵筆のキャンバスを走る音が聞こえてくるような感じを与える。

黒田の滞仏中の進境を示す作品で、鹿児島市指定文化財である。

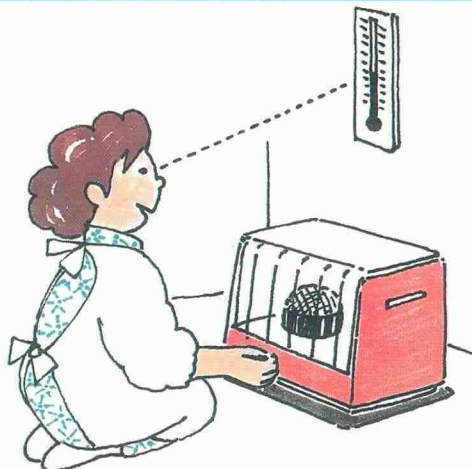
万一の事故に備えて 1日1円で80万円の保障

鹿児島市交通災害共済



二輪車は正しい乗り方で

●申込み先／市役所本館玄関・谷山支所・伊敷支所・東桜島支所・吉野出張所



あなたの家庭でも
省エネを考えよう。